千葉市スマートシティ推進ビジョンの実現に向けた

千葉市スマートシティプロジェクト2023

令和5年4月 千葉市

編集・発行 ／
千葉市総合政策局 未来都市戦略部
スマートシティ推進課
メールアドレス:smartcity.POF@city.chiba.lg.jp

掲載プロジェクト一覧

1. リーディングプロジェクト

No	名 称	ページ
1	ゼロカーボンシティの実現	3
2	市役所のスマート化の実現	5
3	スマート農業の推進	7
4	スマート動物園	9
5	モビリティの活用による回遊性の向上	11
6	ICT等の活用による健康づくりの促進 【NEW】	13
7	デジタルデバイド対策	15

2. スマートシティプロジェクト ★リーディングプロジェクト ◎拡充するプロジェクト

取組みの方向性 ● 1. 暮らしがスマート！

No	名 称	ページ
1	シェアリングエコノミーの推進	18
2	ICT等の活用による健康増進★ 【NEW】	19
3	地域コミュニティにおける活動の活性化	20
4	多様な関係者による幕張新都心のまちづくりの促進 【NEW】	21
5	多文化共生社会の実現	22
6	ICTの活用による救急業務の効率化	23

取組みの方向性 ● 2. ビジネスがスマート！

No	名 称	ページ
7	市役所における多様な働き方の推進	24
8	介護人材の確保	25
9	農業経営者の維持・拡大と流通の多様化★◎	26
10	ドローンの実用化推進	27
11	安定的・発展的な経済活動への支援	28

取組みの方向性 ● 3. 学びがスマート！

No	名 称	ページ
12	電子図書館(Digital libraty)の構築	29
13	デジタルデバイド対策★	30
14	誰もが生涯にわたり学び続けられる環境づくり	31
15	個別最適化された学びの実現◎	32
16	デジタルミュージアムの構築◎	33

取組みの方向性 ● 4. まちがスマート！

No	名 称	ページ
17	多様な移動・交通サービスの提供	34
18	幕張新都心の回遊性向上による賑わいの創出★	35
19	安全・安心なまちづくり	36
20	災害対応の適正化・効率化・迅速化	37
21	インフラなどの維持管理の効率化及び安全対策の強化	38
22	ゼロカーボンシティの実現★	39
23	美しいまちづくりの実現	40
24	新病院の整備 【NEW】	41
25	スマート動物園★◎	42
26	MICE開催促進と新たな価値創造	43
27	多様な観光客に対する質の高いサービスの提供	44

取組みの方向性 ● 5. 市役所がスマート！

No	名 称	ページ
28	データ利活用を通じた多様な主体との協働の推進	45
29	行かなくていい、待たなくていい、使いやすい市役所の実現★◎	46
30	一人ひとりのニーズに合った行政サービスの提供★	47
31	市役所業務における先端技術の活用によるBPRの推進◎	48

1 リーディングプロジェクト

リーディングプロジェクトとは

スマートシティプロジェクトの中で、本市をさらに飛躍・発展させる
シンボル的な取組みとして積極的に推進するプロジェクトです。

LEADING PROJECT

リーディングプロジェクト 1

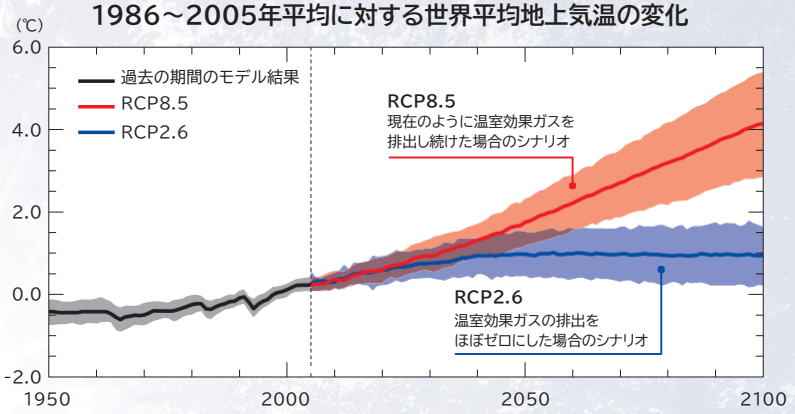
ゼロカーボンシティの実現

➡39ページにも関連の記載があります

1. 現状と課題

- 地球温暖化の更なる進行が懸念される中で、既に気候変動の影響は、気温の上昇、大雨の頻度の増加や、農作物の品質の低下、動植物の分布域の変化、熱中症リスク、物流への影響の増加など全国各地で起きており、さらに今後、長期にわたり拡大するおそれがある。
- 日常生活や事業活動における省エネルギーの取組みのほか、二酸化炭素を排出しないエネルギーへの代替を進めることで、脱炭素型の社会構築に取り組むことが求められる。
- また、既に影響を及ぼしている気候変動に対して、その影響を回避し、リスクを最小限に抑えるための備えが必要。

1986～2005年平均に対する世界平均地上気温の変化



出典：千葉市地球温暖化対策実行計画改定版

2. 目指す姿

- 住宅や建築物のエネルギー収支ゼロを目指すZEHやZEBに加えて環境性能がよい家電製品の普及促進やAIなど先進技術の活用を進めます。
- また、快適にエネルギーを効率よく利用するとともに、再生可能エネルギー活用の拡大など、様々な主体が総力を挙げて取組むことにより、持続可能な社会に向けて、温暖化の主因といわれる二酸化炭素の排出を実質ゼロにするゼロカーボンシティの実現を目指します。

温室効果ガス排出量（千t-CO_2／年）

現在（2018年度）	目標値（2030年度）
13,674	2050年のカーボンニュートラルに向けた値※

※国の目標引き上げ（2030年の温室効果ガス排出量を2013年から46%削減）などを受けて、本市は令和5年度早期に、2050年のゼロカーボンシティ実現を視野に入れた新たな地球温暖化対策実行計画を策定予定です。その中で、具体的な数値目標を設定します。

リーディングプロジェクト 1
ゼロカーボンシティの実現

3. 実現に向けた取組み

- 家庭、事業所における省エネの促進
- 建築物の省エネ化、ネットゼロ化の促進
- 再生可能エネルギーの創出、利用促進
- 次世代自動車利用に関する取組みの促進
- 水素エネルギーの活用
- 自立分散型エネルギーの確保
- 気候危機に対する行動変容の促進

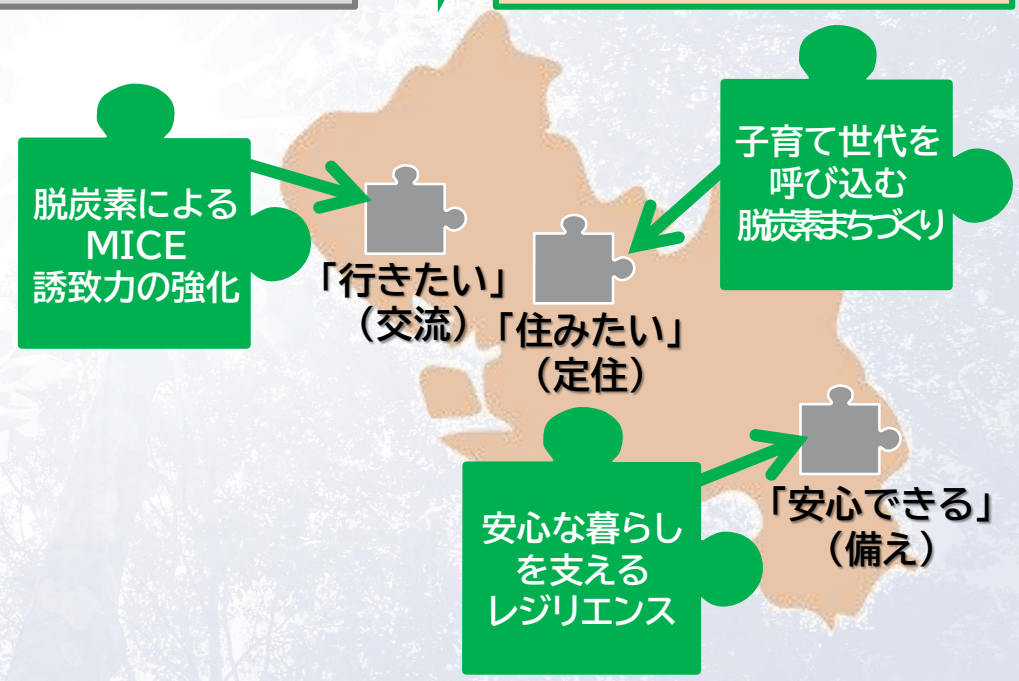
5. 令和5年度の主な取組み

- 脱炭素先行地域に基づく取組推進
- 再生可能エネルギー等設備設置促進
- EV･FCVなどの次世代自動車の普及促進
- 集合住宅向け電気自動車充電設備の普及促進
- ZEH導入の促進
- ZEBの普及促進
- 省エネ最適化診断の促進
- 中小事業者向け省エネ設備の促進
- 中小事業者向け電気自動車充電設備の普及促進
- 脱炭素アドバイザー派遣

4. 脱炭素先行地域事業

脱炭素で磨き上げる都市の魅力～「行きたい」「住みたい」「安心できる」千葉市へ～

都市と自然の両面をあわせもつ魅力の磨き上げが必要 → 脱炭素の取組で人が集う、「行きたい」「住みたい」「安心できる」千葉市へ



リーディングプロジェクト 2

市役所のスマート化の実現

➡46・47ページにも関連の記載があります

1. 現状と課題

市民が市役所に合わせなければならない

- 市役所の指定する場所と時間でなければ手続ができない。
- 窓口での丁寧な説明などのサービスを希望する市民は、窓口で待たなければならない。
- 窓口での説明が不要な市民でも、窓口に行かなければならない。

申請漏れによりサービスを受けられない可能性がある

- 忙しくて時間のない方が予防接種や健診の申請を忘れてしまう。
- 制度を知らなかったことにより、制度利用の機会を逃してしまう。
- 制度について検索したり、問い合わせることが負担

2. 目指す姿

行かなくていい、待たなくていい、使いやすい市役所

- 従来の窓口に加え、いつでも、どこからでもできる行政手続
- 親切で分かりやすく、一度で済む申請様式
- デジタル活用による多様な相談手法への対応

容易に必要なサービスが受けられる市役所

- 一人ひとりのニーズに合わせた情報の提供
- 利用手続の負担感なく、行政サービスを提供

リーディングプロジェクト 2
市役所のスマート化の実現

3. 実現に向けた取組み

市役所への手続のオンライン化

- 来庁の手間を軽減するため、市役所への手続の原則オンライン化を推進
- 令和3年度末時点で、年間の手続件数で約8割に相当する手続をオンライン化

4. 令和5年度の主な取組み

- より多くの方がオンライン化された手続に接することができるよう、更なる広報を行う。
- 目的の手続に容易にたどり着ける仕組みの検討を行う。

「あなたが使える制度お知らせサービス ～For You～」の提供

- 市が保有する住民情報を活用し、各制度の受給対象となる可能性のある方に対し、 LINEのメッセージを送付するサービスを提供
- 個別にお知らせを送付することにより、受給漏れの防止を図る。

- お知らせの対象制度を拡充する。
  また、お知らせ対象制度の更なる拡充に向けて検討を行う。
- より多くの方にお知らせをお届けできるよう、LINEに加え、メールによる通知機能を追加する。

リーディングプロジェクト 3
スマート農業の推進

➡26ページにも関連の記載があります

1. 現状と課題

千葉市における農業経営者数の動向

年齢層	～29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	計
2005	1	26	147	442	533	710	1859
2010	1	11	94	362	433	645	1546
2015	0	9	48	163	395	475	1090
2020	1	19	30	109	275	477	911

出典：2005～2015 農林業センサス「販売規模別農業者数（販売農家）」
2020 農林業センサス「経営主年齢階層別の経営体数（総数）」

千葉市における農地の面積

4,000ha（2008年） ▶ 3,540ha（2021年）

この間、約▲10%の農地面積の減少

農業者の高齢化に伴い、農業経営者が減少傾向にあります。
また、農地も、年々減少傾向にあります。
農業経営者の維持拡大や農業の成長産業化に向けて、農業法人の参入や青年農業経営者の確保・育成を促進するとともに、農業現場の効率化・省力化を進めていくことなどにより、生産性を高めていくことが求められます。

2. 目指す姿

多様な意欲ある担い手の出現による活力ある農業の実現

先端技術を用いて省力化・効率化された、生産性の高い農業の実現

農業分野への活発な法人参入の実現

スマート農業技術の活用などによる市内農業の振興

リーディングプロジェクト 3

スマート農業の推進

3. 実現に向けた取組み

1. 農政センターの機能強化

スマート農業技術を用いて、農政センター内でSDGsの社会情勢に沿った燃油削減実証実験を実施

2. データを駆使した農業経営の支援

気候や栽培環境、収穫量や市況等のデータを総合的に見える化して活用する技術を農業技師が習得し、データを活用した農業経営をサポート

3. スマート農業技術導入支援

農業の生産性向上や省力化、高品質生産に繋がるICTやロボット技術を活用した機器や農業機械の導入などに対する支援を実施

4. 令和5年度の主な取組み

- **スマート農業技術実証**
  再生可能エネルギーの活用実証や収益性向上の実証を行うトマト栽培用のハウス2棟を農政センターに整備
- **データを駆使した農業経営の支援**
  R3のイチゴ(施設園芸)、R4のニンジン(露地)の事例研究により農業技師が習得したデータ活用型技術指導のスキルを定着化
- **スマート農業機器の貸出し**
  農政センターに導入した環境モニタリングシステムを農業者に貸し出し、農業技師の指導でスマート農業技術の導入を支援

リーディングプロジェクト 4

スマート動物園

➡42ページにも関連の記載があります

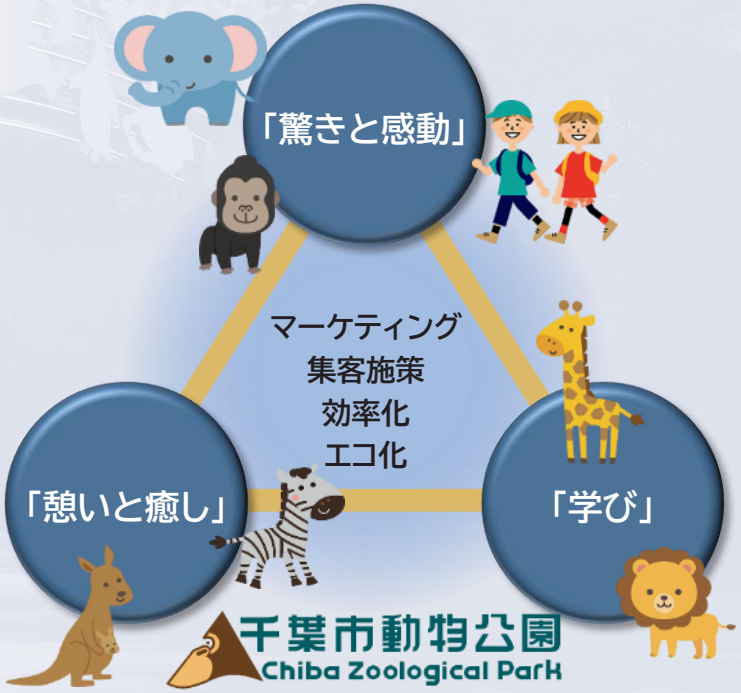
1. 現状と課題

- 施設の老朽化
- 情報発信の方法や質・量が不十分
- 展示内容の陳腐化（展示手法の刷新）
- 顧客が期待する体験やサービス提供が不十分

魅力の減少
入園者の減少

上記の課題解決に向けて、平成26年3月より、「千葉市動物リスタート構想」を策定し、「市民に身近な動物園としての存在と、都市の活性化につながる集客観光施設としての再生を図る」ことを基本理念とし、**より愛され、親しまれる、市民生活に根付いた（共創・協創・交流）施設への刷新を推進中。**

2. 目指す姿



動物園としての社会的使命（種の保存・調査研究・教育・レクリエーション）の高度化を図るとともに、来園者の満足度向上に向けて、最先端のテクノロジーやデータの活用など様々な時代に即した取組を実施し、常に進化し続ける動物園を目指します。

リーディングプロジェクト 4
スマート動物園

3. 実現に向けた取組み

1.「驚きと感動」の創出

- **自動運転技術の活用**
  （開かれた施設づくり）
  「オンライン動物園」
  「園内周回体験イベント」の開催

2.「憩いと癒し」の創出

- **井戸水を利用した屋外空調装置**
  （通常の冷房を使った空調に比べ約75％のCO_2排出削減）

3.「学び」の創出

- **ICTやITサービスの活用**
  - QRコードによる動物ガイド
  - 自動運転＋動物ガイド
  - AIを活用した動物生態や展示環境の視える化
  - アプリやYouTubeの導入、SNSとの機能連携

4. マーケティング・エコ＆効率化

- **特殊菌を活用した動物の糞尿・残滓の消滅**
- **脱炭素等に資する新規設備の導入**
- **AI活用による来園者動向の把握と施策反映**
- **アプリによる集客施策（プッシュメール・クーポン他の来園促進）**

4. 令和5年度の主な取組み

- **電子決済システムの拡充（駐車場）**
  - 駐車場精算機キャッシュレス決済の導入
    （接触の極少化と車両渋滞緩和）
- **リモート環境を活用した新たな教育機会の創出**
  - リモート環境の活用領域拡充
    （不登校児童・老人介護施設等福祉プログラムへの展開検討）
- **デジタルコンテンツ制作・配信強化**
  - 動物解説の有料化（有料の動画配信サービス）
- **マーケティング強化と業務効率化**
  - AI活用による来園者への混雑状況等配信
- **バイオマス熱ボイラー導入調査**

混雑状況配信のイメージ

リーディングプロジェクト 5

モビリティの活用による回遊性の向上

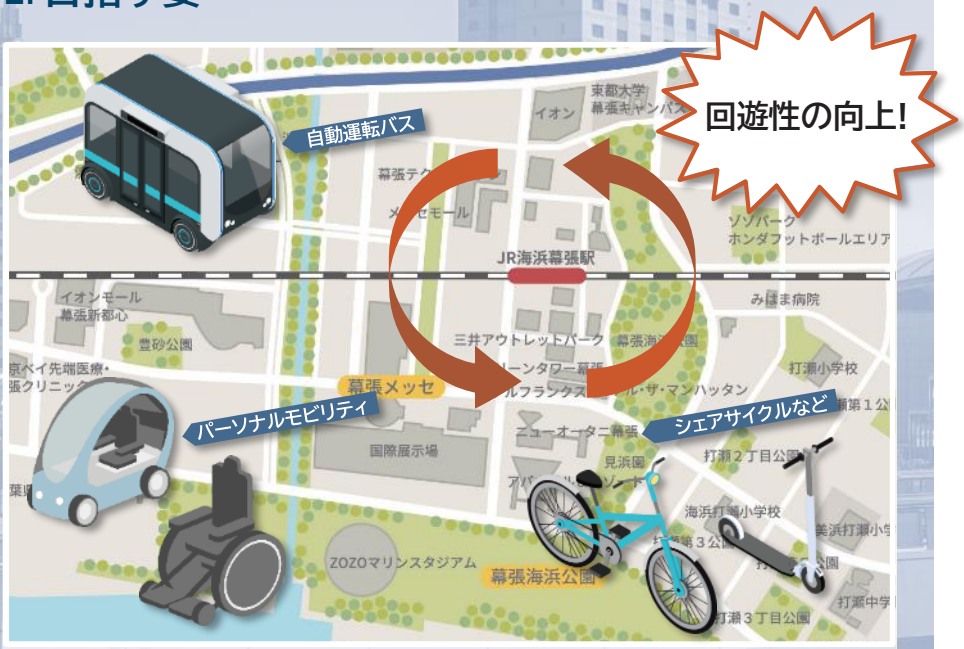
➡35ページにも関連の記載があります

モビリティの活用によるまちの回遊性向上をはかるため、
幕張新都心において先行的な取組みを推進します。

1. 現状と課題

各拠点間に一定の距離があり、来街者の多くは**JR海浜幕張駅と目的施設との「単純往復」**が多く、周遊促進による活性化が求められます。

2. 目指す姿



モビリティを始めとするテクノロジーの活用により、エリア内のすべての人が拠点間をストレスなく行き来し、様々なサービスを容易に利用できる賑わいあふれるまちの実現を目指します。

リーディングプロジェクト 5

モビリティの活用による回遊性の向上

3. 実現に向けた取組み

幕張新都心版MaaSの実現

- JR幕張豊砂駅の開業を契機とした回遊性向上の取組みを開始
- 多様なモビリティサービスと幕張新都心の宿泊・観光・購買・医療サービス等を一体的に提供するサービスの実現を目指す

自動運転バスの運行

- エリア内を自動運転バスが巡回
- 人的コストを最小化し、安全安心な送客を実現

パーソナルモビリティシェアリングサービスの提供

- 自動送迎・無人回収可能なシェアリングサービスを提供
- ラストワンマイルの移動手段を整備

4. 検討主体 ▶ 幕張新都心モビリティコンソーシアム

移動サービスを中心に、商業やスポーツ、観光等幕張新都心の発展に寄与する事業を推進するための産官学民による団体

5. 令和5年度の主な取組み

■自動運転モビリティ等社会実装サポート

モビリティサービスの社会実装を実現するため、民間事業者による実証実験を支援

■デジタルツインを活用した自動運転車サービス導入支援委託

現実世界を再現した仮想空間上で、自動運転技術を検証

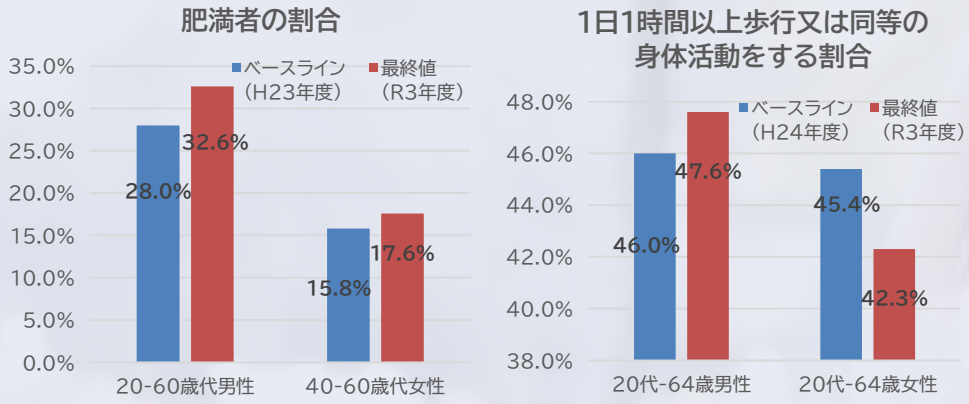
リーディングプロジェクト 6

ICT等の活用による健康づくりの促進【NEW】

➡19ページにも関連の記載があります

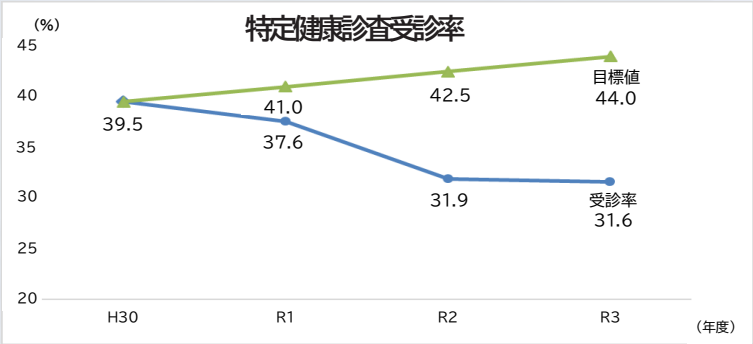
1. 現状と課題

就労世代の健康づくりへの取組みが進んでいない
（健康無関心層を含めた市民の行動変容が重要）



（出典）健やか未来都市ちばプラン最終評価報告書

健診受診率が低い（40%以下）
（生活習慣病予防の啓発が必要）



（出典）目標値：第2期千葉市国民健康保険データヘルス計画
受診率：法定報告

2. 目指す姿

日々の生活の中で継続して
健康づくりに取り組んでいる

- 肥満を予防し適正体重を維持する健康的な食生活について理解し実行している
- 自分に必要な身体活動量を知り、日常生活の中でウオーキング等に継続して取り組んでいる
- 運動に関する正しい知識を身につけ、自分に合った運動を行っている

定期的に健診受診や必要な医療を受け、
自ら健康行動をとることができる

- 定期的に健診を受け、自身の健康状態を把握している
- 特定健診の結果、特定保健指導の対象となった市民が、生活習慣の改善に取り組み、体重または腹囲の減少を実感し、その取組みを継続できる

- 健診の結果、医療が必要な市民や、糖尿病等で既に治療中の市民が、自身の健康状態を理解し、重症化予防のために必要な行動をとっている

リーディングプロジェクト 6

ICT等の活用による健康づくりの促進

3. 実現に向けた取組み

人々が主体的かつ継続的に健康づくりに取り組むための環境整備

- 健康づくりの取り組みへのインセンティブ付与
- 健康づくりの取組みに、一人でも参加、継続しやすくなるツールの検討
- 企業や関係団体と連携した職場における健康づくりの推進

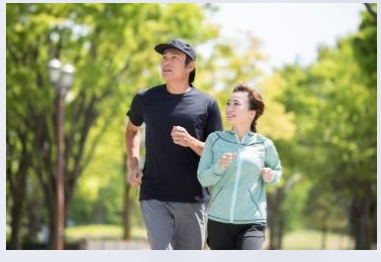
健康への関心・意識の改革

- 継続的に健診受診をする意識や受診行動を促進できるような環境づくり
- 生活習慣の改善や健康意識、参加意欲の高まる保健指導・プログラムの企画、魅力的なツールの提供
- 健診結果を踏まえ、重症化予防のため、継続的な治療と生活習慣予防の行動を促す仕組みづくり

4. 令和5年度の主な取組み

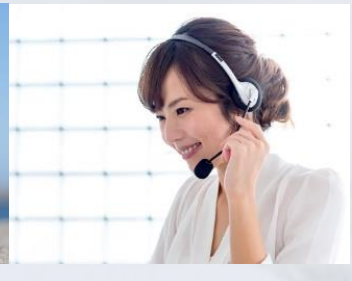
新たな健康インセンティブ事業の検討

- ICTの活用による魅力的で参加しやすい、健康づくりのためのツールを検討



ICTを活用した特定保健指導の実施

- ICT(ウェアラブル端末)の活用など、新たな手法も取り入れた継続的な特定保健指導の実施



リーディングプロジェクト 7

デジタルデバイド対策

➡30ページにも関連の記載があります

1. 現状と課題

- 社会のデジタル化を進めるなかで、デジタルを使いこなせる方々と、そうではない方々の「デジタル格差」(デジタルデバイド)が生じている。
- このような課題に対応し、誰もがデジタル化の恩恵を享受できる社会を実現することが求められている。

国のデジタル活用支援事業

2. 目指す姿

- 民間事業者や国などと連携し、高齢者などが身近な場所でスマホの使い方を相談できる重層的なサポート体制を構築する。

リーディングプロジェクト 7
デジタルデバイド対策

3. 実現に向けた取組み

スマートフォン講座の開催

スマートフォン相談会の開催

4. 令和5年度の主な取組み

❶スマートフォン講座・スマートフォン相談会

講座・相談会の回数や内容を拡充するとともに、スマホの利用状況や理解度に応じて講座を選択できるようにする。

❷重層的な相談体制の構築に向けた検討

高齢者などが身近な場所でスマホの使い方を相談できるよう、民間事業者や国などと連携し、重層的な相談体制の構築に向けて検討を進める。

2 スマートシティプロジェクト

千葉市が目指す5つのスマート

1. 暮らしがスマート! …… 16~19
2. ビジネスがスマート! …… 20~24
3. 学びがスマート! …… 25~29
4. まちがスマート! …… 30~39
5. 市役所がスマート! …… 40~43

スマートシティプロジェクトとは

スマートシティ推進ビジョンの実現に向けて、現時点で予定している具体的な取組みであり、プロジェクトごとに「現状と課題」・「目指す姿」・「実現に向けた取組み」・「ロードマップ」を掲載しています。

※ロードマップは制度改正や予算措置の状況などにより変更の可能性があります。

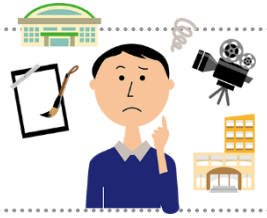
SMART CITY PROJECT

No.1 シェアリングエコノミーの推進

現状と課題

活用可能な資産(場所・モノ・スキルなど)を保有しているのに、活用できていない

場所・モノ・スキルなどの活用希望はあっても、どのように探したら良いかわからない



目指す姿

シェアリングエコノミー※の推進
※インターネット上のプラットフォームを介して活用可能な資産などをマッチングする経済活性化活動のこと

場所・モノ・スキルなど、遊休資産のシェア促進

利用者の安全・安心の確保(懸念・不安の軽減)

少子高齢化や地球温暖化などの課題解決に向けたエコロジーでサステナブルな社会への貢献

実現に向けた取組み

シェアリングエコノミーの普及促進・活用支援

- シェアリングエコノミーを活用した市施策との連携
- シェアリングエコノミー活用事例などの周知を通じた認知度の向上

実施事例

[空間のシェア]
イベントホームステイ

[スキルのシェア]
体験提供

[お金のシェア]
クラウドファンディング

ロードマップ

令和5年度(2023年度)	令和6年度(2024年度)	令和7年度(2025年度)	令和8年度(2026年度)	令和9年度(2027年度)
市施策との連携・民間での活用活性化				

No.2 ICT等の活用による健康増進促進【NEW】

現状と課題

- 就労世代が健康づくりを行動化できていない(健康無関心層の行動変容が重要)
- 特定健診受診率が低い(40%以下)。生活習慣病予防の啓発が必要

目指す姿

運動づくりについての理解を深め、自分にあった運動や適正体重維持に取り組む

→ 日常生活において継続的な健康づくりの取組みを実施

定期的に健診を受診するなど、自身の健康状態を把握し、生活習慣病予防に必要な行動を実施

→ 健診結果を踏まえて必要な健康行動を行っている

実現に向けた取組み

1. 新たな健康インセンティブ事業の検討
2. ICTを活用した特定保健指導の実施

ロードマップ

	令和5年度(2023年度)	令和6年度(2024年度)	令和7年度(2025年度)	令和8年度(2026年度)	令和9年度(2027年度)
1	検討				
2	実施				

No.3 地域コミュニティにおける活動の活性化

現状と課題

- 地域活動参加者の減少
- 住民の高齢化

→

- 活動の担い手不足
- 団体役員の過度の負担
- 住民間交流の減少

→

地域コミュニティの希薄化・弱体化

目指す姿

ICTにより、
地域活動団体の
事務負担を軽減

ICTを活用し、
地域活動団体を
より身近なものにし、
参加者を増やす

**地域活動団体を
持続可能なものに**

実現に向けた取組み

町内自治会活動の推進

- ICTによる地域活動の効率化(研修・出前講座の実施)
- 広報活動の充実を図るため、SNSなどを活用した情報発信の支援
- 町内自治会マップの電子化

多様な主体の情報共有に向けた支援

- 地域で活動する団体同士の連携促進
- 地域の未来予測(将来像の見える化)

ロードマップ

令和5年度(2023年度)	令和6年度(2024年度)	令和7年度(2025年度)	令和8年度(2026年度)	令和9年度(2027年度)
検討・実証・実施				

No.4 多様な関係者による幕張新都心のまちづくりの促進【NEW】

現状と課題

- 生活様式や価値観の多様化、生活に関するニーズの高度化に伴う、環境や安全・安心への関心の高まり
- 施設の維持管理・運営コストの低減や効率的な管理が必要
- 地域間競争の進行に伴い、地域特性を活かした取組みが必要

→ 多様な関係者が連携・協働し持続可能な都市経営を目指す新たな仕組みづくり

目指す姿

エリアマネジメント組織の組成

まちづくりに関する機運醸成

地域価値の維持・向上、新たな地域価値を創造
シビックプライドの醸成
地域のブランド力向上・イメージアップ

実現に向けた取組み

1. **エリアマネジメント組織の組成**
   幕張新都心で活動する多様な関係者が一体となってまちづくりを進めるため、まちの価値を維持・向上させるためのエリアマネジメント組織を組成・育成する

2. **まちづくりに関する機運醸成**
   「幕張新都心まちづくり将来構想」の目指すべく姿を周知・共有しながら、主体的にまちづくりを担っていく“きっかけ”づくりを行う

ロードマップ

	令和5年度（2023年度）	令和6年度（2024年度）	令和7年度（2025年度）	令和8年度（2026年度）	令和9年度（2027年度）
1	目標・課題抽出・検討		準備会設置	エリマネ立ち上げ・始動	
2	実証・実施				

※エリアマネジメントとは
⇒地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、住民・事業主・地権者等による主体的な取組み

No.5 多文化共生社会の実現

現状と課題

外国人市民の増加、
ニーズへの対応の複雑化

→ 言語の多様化や外国人市民のニーズへの適切な対応が必要

- 多言語による各種情報の提供、相談対応
- 行政手続きの多言語化、オンライン化
- 日常生活における通訳ニーズへの対応
- 災害時、非常時の外国人市民支援

目指す姿

ICTの活用により、
多言語による
情報発信・相談対応を強化

国籍を問わずすべての
外国人が滞在しやすい、
暮らしやすいまちに

実現に向けた取組み

- 市・国際交流協会HPの多言語化を行うとともに、外国人市民からの問合せに対して、多言語AIチャットボットなどで対応
- 行政手続フォーマットの多言語化
- 多言語音声翻訳アプリやビデオ通話アプリを活用したタブレット端末などによる窓口サービスなどの充実
- 新たな国際交流ボランティア制度の検討、多言語コールセンターによる三者通訳対応
- ビッグデータを用いて外国人の利用が多いエリアを時間や言語ごとに解析し、行政・生活情報の効果的な発信や災害ボランティア派遣に活用

ロードマップ

令和5年度（2023年度）	令和6年度（2024年度）	令和7年度（2025年度）	令和8年度（2026年度）	令和9年度（2027年度）
検 討 モデル実施	実 施			

No.6 ICTの活用による救急業務の効率化

現状と課題

- 救急出動件数は救急業務開始以来、継続的に増加 ※2055年頃をピークと予測
- 救命率の向上を図るため、救急隊の現場到着や病院収容までの時間短縮が必要

→ ICT活用による救急業務を効率化

目指す姿

ICT活用による
受入れ先の医療機関との
迅速なマッチング

AIによる
予測診断結果を適切な
搬送先の選定に活用

市民に迅速かつ質の高い病院前救護サービスを提供

実現に向けた取組み

1. **救急情報システムの運用及び機能強化**
   救急隊の端末で傷病者情報を音声認識により迅速に文字化し、搬送先候補の医療機関端末に一斉送信・照会することで、搬送先を迅速に決定するほか、利用者の意見を踏まえて機能強化を図る。

2. **AI活用による予測診断の実施**
   システムに入力した傷病者の情報を元に、AIが予測診断を行うことで、救急隊がより適切な搬送先医療機関を選定可能となり、救急業務の効率化に貢献

ロードマップ

	令和5年度（2023年度）	令和6年度（2024年度）	令和7年度（2025年度）	令和8年度（2026年度）	令和9年度（2027年度）
1	第2次システム運用・機能強化	第3次システム開発	第3次システム運用		
2	AI予測診断機能の搭載				

No.7 市役所における多様な働き方の推進

現状と課題

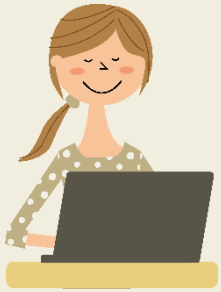
- 将来的な労働力人口の減少
- 災害時などの業務継続

→ 多様で柔軟な働き方の推進 → あらゆる人材が活躍

目指す姿

実現に向けた取組み

1. テレワークの推進
2. 多様な勤務時間制度の推進、多様な働き方に対応した人事評価制度の検討
3. ペーパーレスに適した環境整備
4. コミュニケーションツールの高度化



ロードマップ

	令和5年度（2023年度）	令和6年度（2024年度）	令和7年度（2025年度）	令和8年度（2026年度）	令和9年度（2027年度）
1	推 進				
2	検 討				
3	一部導入・検討		随時導入		
4	一部導入・検討		随時導入		

No.8 介護人材の確保

現状と課題

1. 高齢化の進行 → 介護サービスの需要増加
2. 生産年齢人口の減少 → 介護人材の不足

目指す姿

- 最新技術活用による介護現場の負担軽減
- 学生らに広く介護体験の場を提供

必要な介護サービスが提供され、高齢者が安心して暮らせるまち

実現に向けた取組み

1. 介護事業者と介護ロボット開発事業者が連携するなど最新型の介護ロボットを介護の現場で積極的に活用
2. 介護ロボットの普及に向けたセミナー等による周知・啓発
3. ICT活用によるペーパーレス化及び業務効率化の推進
4. 学生などを対象としたVR活用による介護体験の提供

ロードマップ

	令和5年度（2023年度）	令和6年度（2024年度）	令和7年度（2025年度）	令和8年度（2026年度）	令和9年度（2027年度）
1	モデル実施及び実施結果を踏まえ再検討			実 施	
2	実 施				
3	実 施				
4	実施検討	モデル実施及び再検討	実 施		

No. 9 農業経営者の維持・拡大と流通の多様化

現状と課題

農業経営者の減少及び高齢化の進展

→

- 青年農業経営者の確保・育成
- 農業現場の効率化・省力化の実現
- 農業の生産性の向上

直売所の売上増やフードテック企業の浸透など、消費行動の多様化に対応した多様な流通手段の実践が不足

→

- 消費行動の多様化の進展に対応した農産物・加工品の流通手段の多様化

目指す姿

- 多様かつ意欲ある担い手の出現による活力ある農業の実現
- 先端技術を用いて省力化・効率化された、生産性の高い農業の実現
- 流通手段の多様化による市内産農畜産物の販売促進

実現に向けた取組み

1 農政センターの機能強化
スマート農業技術を用いて、農政センター内でSDGsの社会情勢に沿った燃油削減実証実験を実施

2 データを駆使した農業経営の支援
R3のイチゴ(施設園芸)、R4のニンジン(露地)の事例研究により農業技師が習得したデータ活用型技術指導のスキルを定着化

3 スマート農業技術導入支援
農業の生産性向上や省力化、高品質生産に繋がるスマート農業技術を活用した機器や農業機械の導入などに対する支援を実施

4 市内産農畜産物の流通手段の多様化
ネットスーパーなどのECサイトや食品流通に係るフードテック関連企業との連携、農業者と加工・飲食店などの事業者間の結び付け、流通事業者とのマッチング支援により、農業者の流通手段の多様化を支援

ロードマップ

	令和5年度(2023年度)	令和6年度(2024年度)	令和7年度(2025年度)	令和8年度(2026年度)	令和9年度(2027年度)
1	実 施				
2	実 施				
3	実 施				
4	個別マッチングなど				

No.10 ドローンの実用化推進

現状と課題

- 物流、点検、農業、警備業務などの人材不足
- 令和4年度に予定される改正航空法(第三者上空飛行)を踏まえた対応

→ 国家戦略特区としての優位性を活かした ドローン社会実装、実用化の推進

目指す姿

- 都市部での ドローン宅配の実現
- あらゆる分野での 利活用促進

ドローンによる新ビジネス創出を支援し「空の産業革命」ドローン産業の一大集積地「千葉市」を目指す！

実現に向けた取組み

1. **ドローン宅配サービスの社会実装**
   改正航空法を踏まえ、長距離飛行や配送実証など、社会実装に向けた取組みを加速させる
2. **ドローン利活用促進**
   行政、民間企業の業務効率化のため、課題抽出や市内企業とドローン関連事業者のマッチングを進める
3. **施策の横展開**
   上記取組みをセミナーなどにより、全国の自治体、企業へ広げることで、ドローン産業の振興を図る

ロードマップ

	令和5年度(2023年度)	令和6年度(2024年度)	令和7年度(2025年度)	令和8年度(2026年度)	令和9年度(2027年度)
1	検討・実証			実 施	
2	検討・実証・実施				
3	実 施				

No.11 安定的・発展的な経済活動への支援（市内企業のDX推進）

現状と課題

- 新たな感染症リスクへの備えが必要
- あらゆる分野においてデジタル化が浸透・進展

→ 将来の大きな社会変化に対しても力強く成長する事業者を支援

目指す姿

市内企業のデジタル人材の育成

市内企業のDX推進

時代の潮流に乗って安定的・発展的にビジネスを展開できるまちの実現

実現に向けた取組み

1. **市内企業のDX推進支援**
   市内企業の業務効率性・生産性の向上の観点から、AIやRPAの導入など、市内企業によるDXの取組みを支援

2. **市内企業のデジタル人材育成支援**
   市内企業のDX化を加速させるデジタル人材の育成を支援

ロードマップ

	令和4年度（2022年度）	令和5年度（2023年度）	令和6年度（2024年度）	令和7年度（2025年度）	令和8年度（2026年度）
1	支援実施	支援実施	支援実施	支援実施	支援実施
2		支援実施	支援実施	支援実施	支援実施

No.12 電子図書館(Digital library)の構築

現状と課題

窓口業務などの効率化	→	先進技術を活用した利便性の高いサービスの提供
新型コロナウイルス感染拡大	→	新たな生活様式に対応したサービスの提供

目指す姿

実現に向けた取組み

1. インターネットによる利用登録(電子申請)
2. 自動貸出機の導入
3. AIチャットボットの導入
4. 地域情報・オーラルヒストリーのデジタル化推進
5. 電子書籍の充実
6. オンラインデータベースによるレファレンス機能の充実

ロードマップ

	令和5年度(2023年度)	令和6年度(2024年度)	令和7年度(2025年度)	令和8年度(2026年度)	令和9年度(2027年度)
1			実 施		
2			実 施		
3	検 討		実 施		
4			実 施		
5			実 施		
6			実 施		

※オーラルヒストリーとは
⇒歴史研究のために関係者(地域住民)から直接話を聞き取り、記録としてまとめること。

No.13 デジタルデバイド対策

現状と課題

年齢や障害の有無などにより、
デジタルの利用状況に格差

↓

デジタル化の恩恵が全ての人に行き渡らない

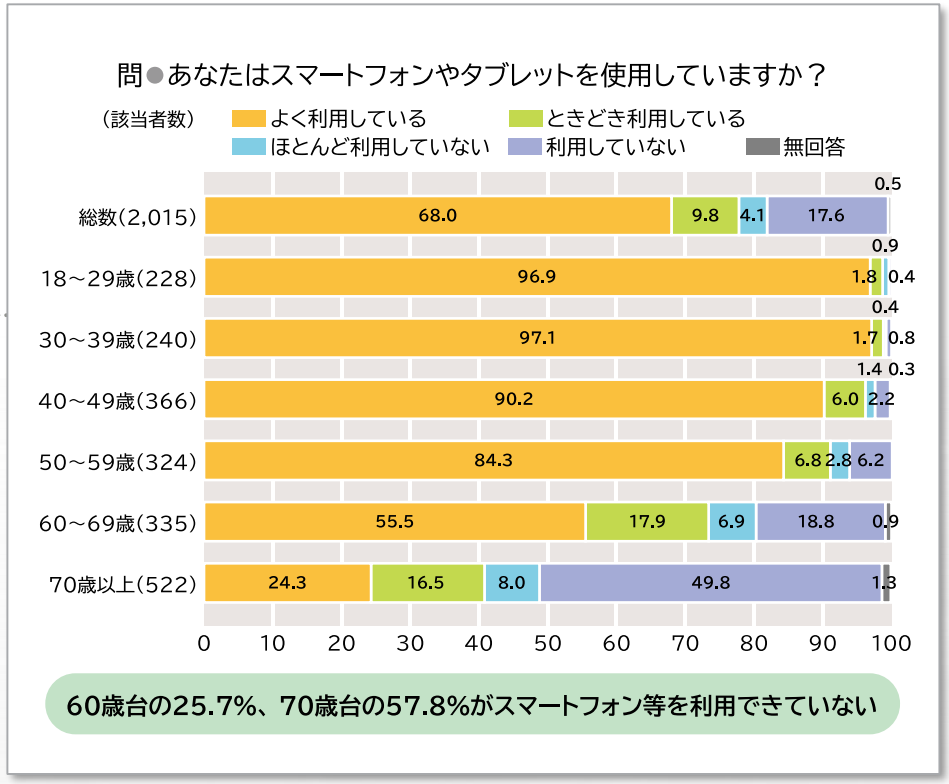
目指す姿

デジタルを
利用することへの
不安の解消

デジタルを学び、
利用する機会の
提供

↓

全ての市民がデジタル化の恩恵を享受



60歳台の25.7%、70歳台の57.8%がスマートフォン等を利用できていない

出典：内閣府（2020）「情報通信機器の利活用に関する世論調査」を基に作成

実現に向けた取組み

- 高齢者などを対象としたスマートフォン講座の開催
- 操作方法などの疑問解消のためのスマートフォン相談会の開催

ロードマップ

令和5年度（2023年度）	令和6年度（2024年度）	令和7年度（2025年度）	令和8年度（2026年度）	令和9年度（2027年度）
実 施				

No.14 誰もが生涯にわたり学び続けられる環境づくり

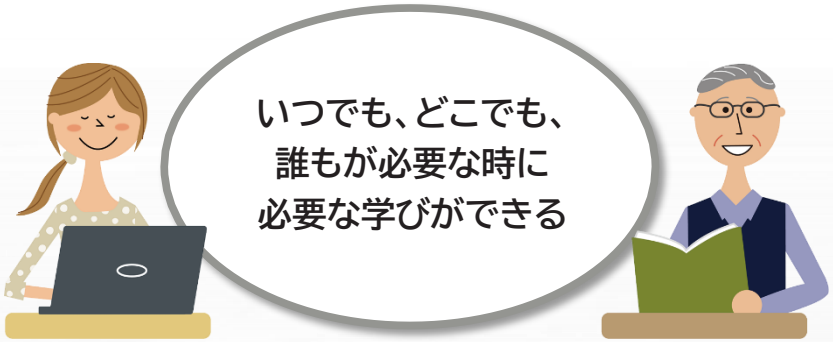
現状と課題

- 利用者数の減少、利用者の固定化・高齢化
- 施設のICT環境整備

→

- 勤労者・子育て世代を中心とした新たな利用者の発掘
- 新しい受講スタイルの構築

目指す姿



実現に向けた取組み

1 オンラインによる生涯学習講座の実施

2 学習用動画の配信

ロードマップ

	令和5年度（2023年度）	令和6年度（2024年度）	令和7年度（2025年度）	令和8年度（2026年度）	令和9年度（2027年度）
1	一部実施・順次拡充				
2	一部実施・順次拡充				

No.15 個別最適化された学びの実現

現状と課題

Society5.0社会の進展、グローバル化の加速	→	多様な人々と協働しながら主体的に考え、行動できる力の育成
子どもを取り巻く環境の変化	→	すべての児童生徒の可能性を最大限引き出す学習環境の整備

目指す姿

- 学力状況の的確な把握
- 個別最適化された学びの実現
- 先進技術を取り入れた授業展開
- 多様な学習形態の選択・工夫

↓

- 科学的視点と教員の経験知のベストミックス
- 個々の能力などに対応したオーダーメイド型教育
- 効果的・効率的な授業(わかる授業)の展開
- 学習のハイブリッド化(対面↔オンラインなど)

実現に向けた取組み

1. オンライン授業の展開(ゲストティーチャーなどの活用)
2. 意見・回答の即時共有を通じた効果的な協働学習
3. 指導者用デジタル教科書の整備
4. 児童生徒の状況のセンシングなどによる把握
5. 知識・技能の定着を支援する個別最適ドリル
6. 学習ログの蓄積・活用
7. 子どもルーム・アフタースクールのWi-Fi環境整備

ロードマップ

	令和5年度(2023年度)	令和6年度(2024年度)	令和7年度(2025年度)	令和8年度(2026年度)	令和9年度(2027年度)
1	実施	実施	実施	実施	実施
2	実施	実施	実施	実施	実施
3	検討・準備	検討・準備	検討・準備	実施	実施
4	調査・研究	調査・研究	調査・研究	調査・研究	調査・研究
5	調査・研究	調査・研究	調査・研究	調査・研究	調査・研究
6	調査・研究	調査・研究	調査・研究	調査・研究	調査・研究
7	実施	実施	実施	実施	実施

No.16 デジタルミュージアムの推進

現状と課題

コロナ禍による観覧者などの減少	→	アクセシビリティの向上
文化財・歴史的資料の公開数拡充	→	知の拠点としての機能強化
少子高齢化の進行	→	無形文化財の後継者育成や郷土芸能の伝承支援

目指す姿

- いつでもどこでも文化財・歴史的資料を鑑賞・閲覧できる
- 豊富なコンテンツの提供
- AI学芸員などによる知の提供
- バーチャル上での無形文化財体験の提供

実現に向けた取組み

千葉市美術館	1	・文化財のデジタルアーカイブ化
	2	・デジタルミュージアムの整備に向けた検討
千葉市科学館	3	・オンラインを活用したリニューアル展示等の紹介
	4	・AR技術を活用した展示の導入
デジタル平和資料館	5	・平和関連事業の総合サイトの開設
特別史跡加曽利貝塚新博物館	6	・デジタル技術を活用した新博物館開館に向けた検討

ロードマップ

	令和5年度（2023年度）	令和6年度（2024年度）	令和7年度（2025年度）	令和8年度（2026年度）	令和9年度（2027年度）
1	実施	実施	実施	実施	実施
2	検 討	検 討	検 討	検討・実証・実施	検討・実証・実施
3	実施	実施	実施	実施	実施
4	実施	実施	実施	実施	実施
5	検 討	実施	実施	実施	実施
6	開館に向けての検討・整備（令和10年度開館予定）	開館に向けての検討・整備（令和10年度開館予定）	開館に向けての検討・整備（令和10年度開館予定）	開館に向けての検討・整備（令和10年度開館予定）	開館に向けての検討・整備（令和10年度開館予定）

No.17 多様な移動・交通サービスの提供

現状と課題

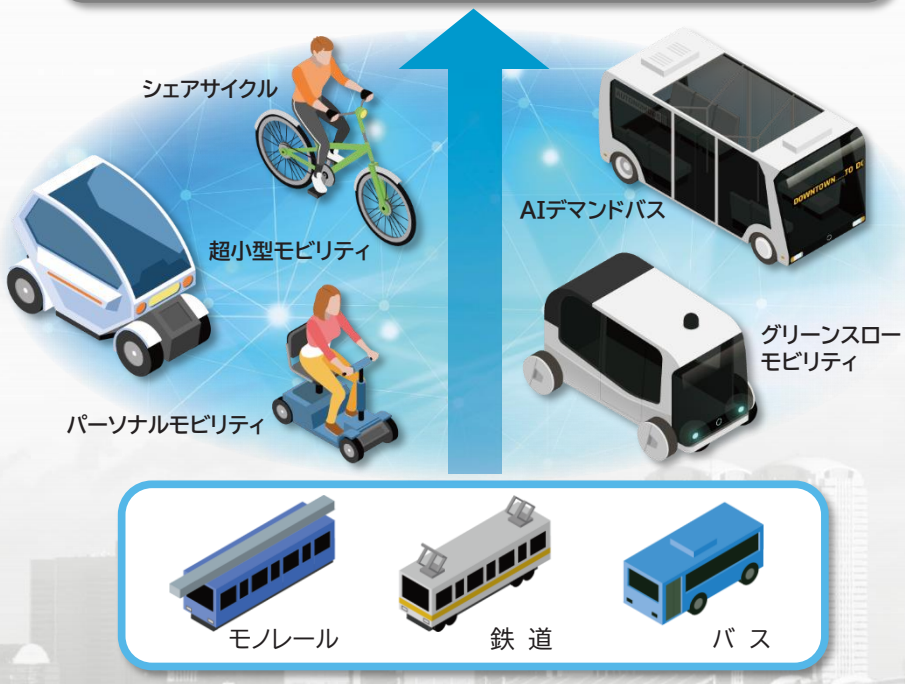
- 移動・交通サービスの正確な情報発信（運行情報・利用実態など）
- 交通弱者をカバーする移動・交通サービス

→

- 利用者目線による移動・交通サービスの最適化
- 地域特性・移動ニーズに応じた、地域住民の移動手段の確保

目指す姿

既存公共交通と次世代モビリティサービスへの
「ベストミックス」



実現に向けた取組み

1. 公共交通の運行情報などの標準化・オープン化の推進
2. 次世代モビリティサービスの社会実装に向けた検討

ロードマップ

	令和5年度（2023年度）	令和6年度（2024年度）	令和7年度（2025年度）	令和8年度（2026年度）	令和9年度（2027年度）
1	推 進				
2	検 討				

No.18 幕張新都心の回遊性向上による賑わいの創出

現状と課題

- 拠点間に一定の距離があり、住民・就業者・学生・来街者の回遊性が乏しい
- 海辺などの観光資源を十分に活用できておらず、国内外からの来街者は多いものの、エリア全体の賑わいが不足

→ 拠点間の移動負担を軽減し、回遊性の向上により賑わいを創出

目指す姿

エリア内のすべての人が拠点間をストレスなく行き来し、様々なサービスを容易に利用できる賑わいあふれるまちの実現

実現に向けた取組み

1. **先端技術を活用したモビリティサービスの実現**
   - 「自動運転バスの運行」や「自動送迎・無人回収可能なパーソナルモビリティシェアリングサービス」の実現に向けて検討・実証などを実施
2. **幕張新都心版MaaSによる付加価値のある快適な移動の実現**
   - 新たに実装するモビリティサービスや既存の交通サービスを1つのIDで利用可能な仕組みの構築を目指す
   - モビリティサービスとエリア内の宿泊、観光、購買、医療サービスなどを一体的に提供するサービスの検討・実施

ロードマップ

	令和5年度（2023年度）	令和6年度（2024年度）	令和7年度（2025年度）	令和8年度（2026年度）	令和9年度（2027年度）
1	検討・実証		自動運転（レベル4）運行		
1	検討・実証		パーソナルモビリティシェアリングサービス提供（自動送迎・無人回収）		
2	MaaS提供（複数モビリティの一体利用）			提供サービス拡大	

No.19 安全・安心なまちづくり

現状と課題

- 交通事故件数　逓減傾向
- 刑法犯認知件数　前年比増加

→

- 交通事故の子どもや高齢者の減少幅は小さい
- 少子高齢化の進行などによる地域防犯力の低下

→ 更なる、交通安全意識の向上及び防犯対策の推進が必要

目指す姿

誰もが安心できるまち

交通事故を防止するため、先端技術を活用した啓発

カメラを活用した犯罪の防止

実現に向けた取組み

- VRゴーグル等先端技術を活用した交通安全推進
- 犯罪や迷惑行為の抑止、子どもや高齢者などの見守りのため、カメラを設置するとともに、先端技術の活用による犯罪防止策の検討

ロードマップ

令和5年度（2023年度）	令和6年度（2024年度）	令和7年度（2025年度）	令和8年度（2026年度）	令和9年度（2027年度）
検討・実証・実施				

No. 20 災害対応の適正化・効率化・迅速化

現状と課題

1. 地球温暖化の影響による気候や自然災害の多様化 → 避難指示などの発令に必要な情報の複雑化
2. 少子高齢化の進行 → 地域の災害対応力が低下
3. 大規模災害発生時の職員不足懸念

目指す姿

適切かつ迅速な災害対応が可能に

- 自助機能の向上
- 共助機能の向上
- 公助機能の向上

デジタルの活用

実現に向けた取組み

1
- 避難指示などの発令に必要な情報をAIが分析し、自動的かつ迅速な避難指示などを発令

2
- 防災に関する教育やイベントをオンラインで開催し、一人ひとりの災害対応力を向上
- 防災団体間のオンライン交流により、好事例を共有

3
- 職員の参集時間短縮を目的とする、AIを活用した災害対応職員の適正配置
- り災証明業務や避難所開錠、被害報告作成などの自動化

ロードマップ

	令和5年度（2023年度）	令和6年度（2024年度）	令和7年度（2025年度）	令和8年度（2026年度）	令和9年度（2027年度）
1 2 3	モデル実施	実 施			

No. 21 インフラなどの維持管理の効率化及び安全対策の強化

現状と課題

道路・上下水道施設などの安全点検の高コスト化や技術者不足、老朽化の進行に伴う点検・管理業務の増加

気候変動に伴う局地的な大雨や暴風雨の発生頻度の上昇に伴う災害の激甚化のおそれ（道路・橋梁・河川などの安全確保）

→ インフラへの先端技術の活用により
- 維持管理の高度化・省力化・省人化
- 事前検知による安全対策の強化

目指す姿

**時代の潮流に合わせた
インフラ維持管理の最適化による生産性の
向上・安全なまちづくりの実現**

ドローンやAI（画像解析技術など）の活用による インフラの維持管理

センサー・カメラとAIを組み合わせ、インフラの異常や危険を自動検知

実現に向けた取組み

1. **安全点検におけるドローンやAIの活用**
明らかに目視確認が必要なインフラを除き、ドローンが撮影した画像をAIが解析し、その結果を踏まえて修繕を判断するなど、省力化・省人化を実現

2. **センサーやカメラの活用による安全対策の強化**
平時や災害時におけるインフラの状況を監視し、被害の最小化や迅速な市民周知を図るため、必要性の高いインフラから順次センサーや監視カメラを設置するとともに、AIの併用により異常や危険を自動検知するなど、安全対策を強化

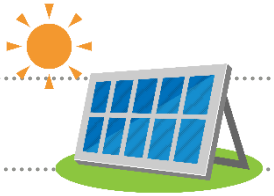
ロードマップ

	令和5年度（2023年度）	令和6年度（2024年度）	令和7年度（2025年度）	令和8年度（2026年度）	令和9年度（2027年度）
1	検討・実証・実施				
2	検討・実証・実施				

No. 22 ゼロカーボンシティの実現

現状と課題

- 二酸化炭素排出量の増加による気温上昇 → 豪雨や台風、猛暑など自然災害が激甚化・頻発化
- 国として、2050年カーボンニュートラルや脱炭素社会の実現を宣言
- 「千葉市気候危機行動宣言」を公表



目指す姿

ゼロカーボンシティの実現

- 再生可能エネルギーの促進
- 省エネルギーの促進
- 気候危機の意識の共有、行動変容

実現に向けた取組み

1. 住宅やオフィスビルの省エネ化(ZEB、ZEH)促進
2. EVなどの次世代自動車の普及促進
3. 清掃工場の余剰電力を市有施設で活用
4. SNSやマスメディアを活用した普及促進

ロードマップ

	令和5年度(2023年度)	令和6年度(2024年度)	令和7年度(2025年度)	令和8年度(2026年度)	令和9年度(2027年度)
1 2	実 施				
3	調査・設計			実 施	
4	実 施				

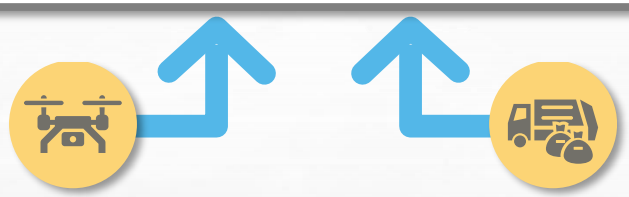
No.23 美しいまちづくりの実現

現状と課題

1. 千葉市家庭ごみチャットボットの運用
2. 生産年齢人口の減少 → ごみ収集車の運転員などの確保
3. プラスチックや小型家電の定期回収 → 回収業務の効率化
4. 広大な再生資源物堆積場への立入調査
5. 相次ぐごみの不法投棄

目指す姿

テクノロジーを活用し、
美しいまちづくりを効率良く実現



実現に向けた取組み

1. 家庭ごみの分別や収集日などの問い合わせを「AI」が24時間365日回答する
2. ICTを活用したごみ収集の実施
3. 回収ボックスにセンサーを設置し、最適なタイミングで回収を実施し、業務を効率化
4. 堆積量を記録するカメラや騒音を測定するセンサーを搭載したドローンにより、人手を補完
5. 不法投棄事例をデータベース化 ▶ AIによる発生予測 ▶ 発生予測箇所の重点的な警戒

ロードマップ

	令和5年度（2023年度）	令和6年度（2024年度）	令和7年度（2025年度）	令和8年度（2026年度）	令和9年度（2027年度）
1	実 施				
2	検 討				
3	検 討			モデル実施	実 施
4 5	検 討		モデル実施	実 施	

No.24 新病院の整備【NEW】

現状と課題

- 海浜病院の深刻な老朽化
- 安定的な病院経営

→

- 新病院の整備
- 将来的な費用負担の軽減を図り、病院全体に要する経費を必要最小限に抑制

新病院完成イメージ

目指す姿

地域の中核的な病院として
総合的な医療を提供

- 胎児から高齢者まで切れ目のない医療の提供
- 救急医療の強化
- 災害医療の強化

「地域小児科センター」・「地域周産期母子センター」としての質の高い医療の実施

二次救急医療機関や災害拠点病院としての体制強化

実現に向けた取組み

新病院の整備

- **がん診療体制等の強化**
  循環器疾患やがん診療など高度専門的な手術に対応するため、ロボット手術室や血管造影装置タイプのハイブリッド手術室の整備を計画
- **効率性・経済性の高い病院**
  太陽光発電パネルを設置し再生可能エネルギーを積極利用するとともに、使用した各種エネルギー量のモニタリングなど、省エネルギー化とメンテナンスコストの低減を図る施設整備（BEMS）
- **情報ネットワークの整備**
  市民に安心で質の高い医療を持続的に提供していくため、全館に職員用の無線LAN環境を整備するなど、職員がいつでも、どこからでも医療情報システムにアクセス可能なネットワーク環境を構築

ロードマップ

	令和5年度（2023年度）	令和6年度（2024年度）	令和7年度（2025年度）	令和8年度（2026年度）	令和9年度（2027年度）
1	造成工事 建設工事等	建設工事等	建設工事 開院準備等	運用開始（令和8年春頃）	

No. 25 スマート動物園

現状と課題

- 入園者数の減少
- 展示内容の陳腐化
- 施設の老朽化

→

- 「種の保存」・「調査研究」・「教育」・「レクリエーション」の4つの領域におけるプレゼンス向上
- 公園機能の高度化

目指す姿

- テクノロジーを活用した動物などに関する学術的向上
- 知的欲求の連鎖を起こす仕掛けの構築など
- 公園環境の整備
- 新たな顧客体験の創出と来園者サービスの向上
- 経営改善とマーケティング施策の実施

→

- 来園者の「驚きと感動」「癒しと憩い」の実現
- 「学び」の場としての高度化・発展
- 経営体質の強化

実現に向けた取組み

1. リモート環境などを活用した新たな教育コンテンツの開発
2. AIを活用した動物生態の視える化による生態検証と新たな観覧スタイルの構築など
3. AIやカメラ等を活用した来園状況の把握・分析によるマーケティングなど
4. 自動運転技術を使った新たなZOOトリップの開発
5. IoTを活用した動物エンリッチメントの構築
6. 再生可能エネルギー利用による居心地のよい環境の提供

ロードマップ

	令和5年度（2023年度）	令和6年度（2024年度）	令和7年度（2025年度）	令和8年度（2026年度）	令和9年度（2027年度）
1	検討・実証・実施				
2	検討・実証・実施				
3	検討・実証・実施				
4	検討・実証・実施				
5	検討・実証・実施				
6	検討・実証・実施				

No.26 MICE開催促進と新たな価値創造

現状と課題

- 新型コロナウイルス感染症の影響によるMICE開催形態の変化 → 新しい生活様式を踏まえた開催形態の変化に対応できる環境整備
- 観光客による観光など市内周遊に乏しい → 行動分析などによるエビデンスに基づく新たなコンテンツを造成

目指す姿

MICE開催を契機とした地域経済の活性化及び消費拡大

市内観光に繋がる新たな観光コンテンツ

MICEの誘致による国内外からの来訪者やイベントの増加

実現に向けた取組み

1. **多様な開催形態に対応するためのMICEへの支援**
   - ・新しい生活様式を踏まえた多様な開催形態への対応
   - ・会場への集客の戻りが早いイベントへの支援推進
   - ・脱炭素先行地域としてグリーン・MICEエリアの推進
2. **市内周遊に繋げるコンテンツ造成**
   - 市内観光施設の来訪者の行動データの収集及び分析による観光マーケティングに基づき新たな観光コンテンツを造成

ロードマップ

	令和5年度（2023年度）	令和6年度（2024年度）	令和7年度（2025年度）	令和8年度（2026年度）	令和9年度（2027年度）
1	支 援				
2	検討・実施				

No. 27 多様な観光客に対する質の高いサービスの提供

現状と課題

- 観光拠点におけるICT化の遅れ → コンテンツ不足による魅力の低下
- 新型コロナウイルス感染症の流行による来場者の減少 → 新しい生活様式に対応した新たな観光ニーズへの対応

目指す姿

テクノロジー活用による新たな観光スタイルの実現

実現に向けた取組み

1. **観光資源などへの来訪や周遊を促す仕組みの導入**
   - ドローン撮影による臨場感あふれる映像を活用した観光の疑似体験プログラムやプロモーションの実施
   - 自動運転車による観光拠点間の送客や来訪者の属性などに応じてレコメンドするアプリケーションの提供など、来訪者の利便性向上に寄与するテクノロジーの活用支援
2. **新しい生活様式に対応した観光需要への対応支援**
   - ARやVRの活用など、現地に行かずとも観光が楽しめるオンライン観光体験プランを提供する事業者を支援

ロードマップ

	令和5年度（2023年度）	令和6年度（2024年度）	令和7年度（2025年度）	令和8年度（2026年度）	令和9年度（2027年度）
1	検討・実証・一部実施			導入支援	
2	検討・実証		実 施		

No. 28 データ利活用を通じた多様な主体との協働の推進

現状と課題

- 複雑化する社会において、市民ニーズは多様化・高度化し、行政だけでは対応が困難な状況に変化
- 地域課題の解決には、多様な主体の参画が不可欠であり、更なる協力体制の構築が必要である
- 市が公開するデータのファイル形式などが利活用に適しておらず、多様な主体による利活用が進んでいない
- 多様な主体が必要とする市保有データが公開されていない

目指す姿

市が保有するデータは、利活用しやすいデータ形式で積極的にオープン化

多様な主体が自発的な公共サービスの担い手として参画

- **市と多様な主体とが連携することで、市民ニーズに対応した公共サービスが提供される**
- **新たな産業やサービスが創出され、市民の利便性が向上する**

実現に向けた取組み

1. **市保有データのオープン化などの推進**
   - 市が保有する情報を積極的に公開し、そのままでは、公開できない情報についても適切な加工をした上での提供を検討することにより、データ利活用を推進する
   - データ利活用に適したファイル形式や標準的なフォーマット仕様を検討し、推進する
2. **シビックテック団体などとの連携**
   - シビックテック団体や企業、他の地方公共団体などとの連携により、オープンデータの具体的な活用策を検討し、活用事例を増やす

ロードマップ

	令和5年度（2023年度）	令和6年度（2024年度）	令和7年度（2025年度）	令和8年度（2026年度）	令和9年度（2027年度）
1	検討・可能なものから随時実施				
2	連携・推進				

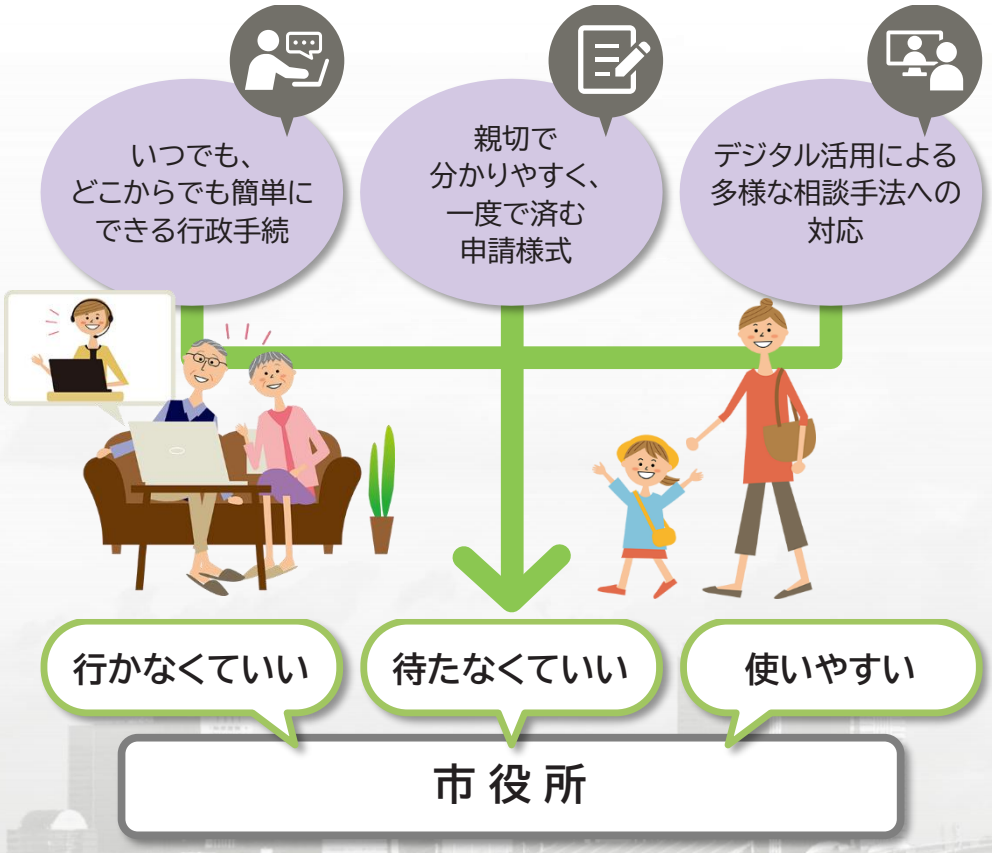
No. 29 行かなくていい、待たなくていい、使いやすい市役所の実現

現状と課題

市民が市役所に合わせなければならない

- 市役所の指定する場所と時間でなければ手続ができない
- 窓口での丁寧な説明などのサービスを希望する市民は、窓口で待たなければならない
- 窓口での説明が不要な市民でも、窓口に行かなければならない
- キャッシュレス決済ができない窓口がある
- 申請書の様式がばらばらで分かりにくい

目指す姿



実現に向けた取組み

1 いつでも・どこからでも・簡単にできる行政手続
- オンラインでも申請ができる手続を拡大し、市民や事業者がいつでも、どこからでも様々な手続ができる環境を整備
- 市民や事業者にとって親切で分かりやすい申請様式を準備し、デジタル処理を前提とした、一度で簡単に手続が行えるを環境整備

2 市役所に行かなくても相談などが可能に
- デジタル技術を活用し、市役所に出向くことなく、市民や事業者と市との様々な相談などが可能となる環境を整備

3 キャッシュレス決済の拡充
- 窓口でのキャッシュレス決済が可能となる環境を整備

ロードマップ

	令和5年度（2023年度）	令和6年度（2024年度）	令和7年度（2025年度）	令和8年度（2026年度）	令和9年度（2027年度）
1	申請様式の順次検討、オンライン申請の運用・拡大				
2	運用・拡大				
3	キャッシュレス決済が可能な窓口を順次拡充				

No.30 一人ひとりのニーズに合った行政サービスの提供

現状と課題

- 忙しくて時間のない方が予防接種や健診の申請を忘れてしまう
- 制度を知らなかったことにより、制度利用の機会を逃してしまう
- 制度について検索したり、問い合わせることが負担

→ 対象者が自ら調べなくても、受給機会を逸することのない仕組みづくり

目指す姿

一人ひとりのニーズに合わせた情報の提供

手続の負担感なく行政サービスを提供

受給漏れがなく、簡単に行政サービスを受けられる状態

実現に向けた取組み

1. **一人ひとりのニーズに合ったサービスの提供**
   - 市民が受給できる行政サービスについて、受給対象となる可能性のある方に対し、個別にお知らせするサービスを提供する
   - 対象制度を拡充し、通知から申請、給付までを切れ目なく完了できるなど、更なる利便性の向上を目指す
2. **手続の負担感なく受けられる行政サービスの提供**
   - 申請などの手続の負担感なく、行政サービスを提供する仕組みについて検討を進める

ロードマップ

	令和5年度（2023年度）	令和6年度（2024年度）	令和7年度（2025年度）	令和8年度（2026年度）	令和9年度（2027年度）
1	通知対象サービスの拡充などの検討・実施				
2	検討・可能なものから一部実施				

No.31 市役所業務における先端技術の活用によるBPRの推進

現状と課題

今後、人口減少により人材確保が困難になっていくとともに税収減が見込まれる中、市民ニーズは多様化・高度化している

一方で、大量の事務を迅速に処理することができなければ、行政サービスの提供に支障が生じるおそれがある

目指す姿

先端技術の活用により業務を効率化

職員が付加価値の高い業務に専念し、市民のニーズに対応

- より市民に寄り添った行政サービスが可能となる
- 市民の利便性が向上する

実現に向けた取組み

業務への先端技術の活用

1
- RPAなどの活用による自動化が可能な定型業務やAIなどの活用による半自動化が可能な非定型業務について、コスト比較などを行った上で、導入を推進
- 導入に当たっては、あらかじめ業務プロセスの再構築を行い、業務全体を最適化

2
- 内部事務系システム(財務会計、庶務事務、人事給与等)を最適化し、業務を効率化

ロードマップ

	令和5年度(2023年度)	令和6年度(2024年度)	令和7年度(2025年度)	令和8年度(2026年度)	令和9年度(2027年度)
1	検討・可能なものから随時実施				
2		基本方針の策定	各システムの個別計画策定・システム更新		